



関東支部会報告



支部長

山田 昭和

(1960年度 英語科卒)

2004年11月20日(土)13時より、「ホテルパシフィック東京」にて、関東支部会が開催されました。林同窓会会長より、高知・大阪支部が発足され、全同窓生の80%がいずれかの支部に所属できるまでになったことが報告されました。支部長より、同窓生でもあり長

年四国学院で教員をされていた久保紘章先生の葬儀に参列したことが報告されました。関東支部には、約650名の会員がいますが、もっと若い層の参加を期待する声と、呼びかけの工夫を求める意見が出されました。支部会は、毎年11月第3土曜日(次回、2006年11月19日(土))に開催しています。多くのご参加をお待ちしています。



またこの度、山田支部長は権威ある「国際アカデミー賞」を受賞されました。

国際アカデミー賞

日本文化を振興推進しそれらの普及、浸透を図り、国際的親善と友好に尽力し国際文化の向上を目指すことを目的としています。芸術・美術・宗教・社会福祉・文化・教育の6部門より選考し、国内外の専門とする分野での活動と業績が極めて顕著であると認められた方に対して、各部門より年2人(前期・後期)審査・選考されます。他、顕彰制度として、「国際芸術文化賞」「社会文化功労賞」があります。

日本文化振興会 総裁 伏見 博明
理事長 棧 勝正

(プロフィール)

学院卒業後、神戸改革派神学校卒業。草加市と横浜市において12年間教会の牧師。この間'69～'76年まで、立教大学キリスト教教育研究所(JICE)研究員。大手コンサルタント会社(5年)を経て、1982年、山田企業内教育研究所開設。その後、(株)ヒューマン・ハーバー設立、代表取締役。教育学博士(Ed.D)・哲学博士(Ph.D)

著書 「フリーターから神の労働へ」(たま出版)

Q 教育部門からの受賞との事ですが、ご自身、どのような活動が評価されたとお思いですか？

6つの健康(霊性の・・・、知的な・・・、美的な・・・、情緒性の・・・、対人関係の・・・、身体の・・・)を提唱しながら、企業内の教育を通して「真に機能する人間」の育成を目指してきました。ここ10年ほどは、ゴールマン博士の「こころの知能指数」でよく知られるようになったEQ(Emotional Intelligence)の普及や研修に取り組んできました。個人としては公開講座(ゲシュタルト的なワークショップ)を、20年間継続してきました。講演会や、研修の総てを見ますと、この30年間に40,000人の方たちに接したことになりますね。

Q ますますご活躍のことと思いますが、これからの生き方、目標とされていることはありますか？

この4月で67歳になりました。この1～2年で学院での何人かの友人も天に帰りました。やはりこの年になると、先が見えてくるといいますか限定されるのを感じます。しかし、現実には、10年先輩、20年先輩で一緒に活動されている健康な方がおられます。そのような方たちを生きたお手本として、健康で楽しい生き方をしたいですね。

また、「こころの時代の本」を書いてみたいと思います。今の時代は知性だけでなく、こころや魂を磨かなければならない時代です。

また、長い間、ボランティアとして関わってきた、沙漠緑化のための植樹活動は続けていきたいですね。世界の沙漠を歩いています、それは、私にとって大きな世界に通ずる道なのです。

Q 最後に山田さんにとって四国学院とは？

A うーん。一言ではいえませんが、私にとってまっすぐだった時代を過ごしたところ、かな。今の時代を生きる力になっていますね。雄大な大麻山の自然と共に、外国から来られた先生たちには、カルチャーショックをうけました。あのキャンパスで、山を仰ぎながら早天祈祷会をしましたが、「山辺に向かいて我・・・」の賛美歌を思い出します。そして、寮の友人や先生方も3～4人加わって下さり、毎朝祈祷会を続けました。そのお一人で、先年まで学院の職員だった三好一弘

氏から、最近まで続けられていましたよ、とお聞きして、なんと嬉しかったことか。今も続けているのかしら、と思います。私にとっては、いまま祈りと切り離しては考えられないところです。学院がいつまでもスピリチュアルでアカデミックなところとして、卒業生のところを支えています。我々卒業生も、祈りを以って支えています。四国学院とは、いつもところが離れないところですね。

今後の山田氏のますますのご活躍をお祈りしています。

～「子育て」「子育て」支援のスペシャリストになる～

「子ども福祉学科」
渡辺 顕一郎 学科長・野崎 晃広 助教授
インタビュー



左側から野崎先生、渡辺先生

2005年4月よりスタートした『社会福祉学部 子ども福祉学科』について、新設学科の特長や内容に関して、渡辺顕一郎教授(学科長)、野崎晃広助教授(教務主任)にお尋ねしたく、講義の間をぬって研究室を訪問させていただきました。

Q 母校に新学科ができたという事は大変興味がわくところですが、先ず『子ども福祉学科』についてその特色と従来の社会福祉学科と細分化された理由をお聞かせください。

A 現代の社会環境が急速に変化している中、少子化が加速度的に進行し、また“子ども”を取り巻く問題が頻発し深刻化しています。児童虐待、少年犯罪、いじめ、不登校、引きこもり、家庭内暴力等、この現状を前にして、次世代を担う“子ども”の健全育成に取り組むことが重要な課題になっています。その支援をしていく体制が必要ですが、“子ども”の福祉に主眼をおきつつも、家庭や地域社会にも目を向けて総合的な支援に携わるための専門知識と技術を有する人材を養成したいというのが目指す所です。(渡辺)

子育て支援というと“保育士”のイメージがありますが、それ以外に福祉に関する相談援助を行う社会福祉士があります。保育士と併せて資格取得が可能になるように養成課程設置の申請を行っています。(野崎)

Q 渡辺先生は『子育てネットくすくす』(子育て支援NPO法人)に関わっておられますね。

A はい、代表を務めております。子どもたちの成育環境も昔からとはずいぶん変化してきました。かつて子どもは、家庭だけではなく大勢の大人や年齢の違う子どもとの関わりの中で育まれてきましたが、今はそうではありません。親子や世代を越えた地域の人たちが気軽に集まってこられる拠点として活動しています。本学の学生達の中にはボランティアとして活動に参加する人もいます。ここに来て赤ちゃんを初めて

抱っこしたとか、子どもと関わる楽しさを知り、また親の苦労も解かるようです。専門学校の短期資格取得の教育と違い、大学の4年間は授業と平行して現場で色々なことを体験し学ぶことが出来るので、広く社会を知ることになり有益であると思います。是非、ボランティアにお越しください。笑(渡辺)

Q 社会福祉学部を選択している学生は、他の学部と比べて、将来に向けてより具体的な目的意識を持って入学されるのではと思いますが、先生からご覧になっていかがですか。

A 高校の進路指導で福祉の進路分野が確立してきています。その理由は国家資格が整備され、社会情勢のニーズに合わせて手に職をつける仕事が脚光を浴びているからです。しかし一方で、資格取得が重視されて、福祉について十分な関心を持たずに入学してきた学生にどう教育するかが課題になります。これは私達にとってやりがいのある課題ですが。(野崎)

四国学院の社会福祉教育には歴史があります。今のように福祉が注目される以前の時代には多くが企業に就職した中で、学院の社会福祉学科を卒業した方達は熱意を持って福祉を学び、現在では福祉施設等の重要な地位につかれています。学院の後輩に対してもいつも親身になって指導やアドバイスをいただき感謝しています。(渡辺)

Q 四国学院では障害のある学生も数多く受け入れていますが、その対応としてどのようなものがありますか。

A 障害のある学生に対しては、アテンダントサービス(介助)、ノートテイクサービス(講義内容の代筆)が

あります。学院では障害のある学生の授業保障を大切にしています。サポートを担うのも学生ですが、ボランティアではなく、大学はそれに対して対価を支払い、障害のある学生に対し、大学は制度として権利を保障することを目指しています。ボランティアでは継続的になると依頼しにくいこともありますからね。これは全国の大学でも先駆的で珍しい取り組みです。大学に赴任しての印象ですが、障害のある学生がキャンパスの雰囲気になんか自然に溶け込んでいるという校風を感じました。課題はまだありますが、お互いに学生が刺激を受け、学び合える環境の中にあります。(渡辺)

また、昨年度まで社会福祉学科に設置運営していた「児童家庭相談室」を今年4月からは子ども福祉学科設置運営する「子ども家庭相談室」として新たにスタートしました。相談室では、子どもの発達、子育て、発達障害などに対する相談、支援活動を行っています。また保育所、幼稚園、学校の先生方に気になる子どもの対応、実践活動の支援をしています。これから様々な形で地域に根ざした活動を展開したいと考えています。(野崎)



「四国学院の良さは学生と先生との距離が近いこと、研究室には学生が気軽に立ち寄れるアットホームさがあります。」と語る渡辺先生。「子ども家庭相談室」の規模を大きく組織として確立し、受入れ体制を充分にしたい。」と語る野崎先生。今年度、「子ども福祉学科」等を拠点とする新校舎の建設が始まりました。大学も含めて学校教育は地域と連携をはかり開かれたものになり、また社会全体で「子育て」「子育て」ができる良い環境があることを願います。私達同窓生にも、さらに情報発信をしていただき、問題提起をして欲しいと願いつつ対談を終えました。

インタビュー/会報委員 飛田 由香



「現代の名工」受賞

市原吉博

(1966年度 英語科卒)



ロゴスだより第4号で紹介の、香川県の伝統工芸士で菓子木型職人の市原吉博さんにこの度、卓越技能章「通称・現代の名工」が贈られました。これは全国の各技術職の中から卓越した技能者150名が選ばれ、虎ノ門パストラルホテルにて厚生労働大臣から与えられる褒章です。本人は「これも学院事務局におられた三好一弘さんを始め大勢の方々のご支援のお陰ですよ」と語られています。さらなるご活躍をお祈りしたいですね。



左側が八鍬さん(ホームステイ先にて)

ニュージーランドに滞在して

八 鍬 弘 子

(1966年度 英文学科卒)

30数年前、主人が脱サラして始めた学習塾で私も30年間英語の指導をしてきました。フルタイムで働いていましたので、毎日多忙を極め、判で押したようなワンパターンな生活でした。昨年退職と同時に約1年間ニュージーランドという別世界で生活する機会が与えられました。それは青春をもう一度取り戻したような感動的な歳月でした。パイプルカレッジの聴講生として学び、J2(ジーザス アンド ジャパン)の奉仕、現地の所属教会を通していろいろなグループに参加させていただくなど想像をはるかにこえた恵みを与えられました。学生という身分を活かしてカンファランスにも数回出席し、彼らと意見交換をしたり、クリスチャンフェローシップを楽しんだり貴重な体験をすることができました。このように幅広い年齢層の人々と友達になれたことで今回の滞在の意義は大きかったと思います。帰国3週間前に9人で車2台に分乗して南島1周をしました。日本の約3分の2の大きさでありながら人口が400万人しかないニュージーランドはまだ自然が豊かに残っています。世界的に有名なミルフォードサウンドやマウントクック。ヘリコプターで山頂の氷河に舞い降りたときの感動。テカボやカイコウラの透き通る水色の湖や海的美しさは生涯忘れられない思い出になりました。今年6月ミッショントリップの一行がはじめて大阪の私たちの教会に来てくれます。その名もレインボープロジェクトと命名されたそうです。この草の根の働きがさらに広がり、地球規模で発展していくことを関係者は祈っています。彼らとの再会を楽しみにしているこのごろです。ああそうそう、ぜひお伝えしたいことがあります。ニュージーランド滞在中、四国学院出身の栗原成子さんとお会いすることができました。同窓生というだけで初対面にもかかわらず心と通じて話せました。今もメールのやり取りを楽しんでいます。



(エスペラナード公園にて)

学院からのご案内

2006年度 四国学院大学学生募集のお知らせ

2005年 9月21日(水)	大学院(一次)・編入(一次)・社会人入学試験
10月12日(水) ~ 2006年3月27日(月)	AO入試: パーソナル推薦入学選考
11月17日(木) ~ 11月19日(土)	推薦入学選考
2006年 2月1日(水)・2日(木)	一般入学試験(A日程)
2月17日(金)	大学院(二次)・編入(二次)入学試験
3月10日(金)	一般入学試験(B日程)・大学院(三次)入学試験

※AO入試: パーソナル推薦入学選考とは本学AO(アドミッションズ・オフィス)にて面接と書類審査にて選考する入試制度です。

カーボン キャンパス

お問合せ

- 四国学院入試課 0120-459-433
- 学院ホームページ <http://www.sg~u.ac.jp>

■ 日 時 7月30日(土) 12:00~
9月10日(土) 12:00~

■ 場 所 四国学院内

目で見て、聞いて、肌で感じて大学を直接体験。
四国学院の受験生のみなさんに大解放します。

※施設見学、個別相談等は随時受付けています。
お気軽にお電話下さい。

只今、建設中

(完成予定 2006年夏)

伝統と未来を引き継いでいく
キャンパス、地域の顔としての大学、
地域交流の拠点となるキャンパス
作りがコンセプト



- ① アクション・プラザ棟 (新校舎)
- 1F 学生支援センター・市民の共同によるイベントマルチスタジオ
 - 2F3F カルチュラルマネジメント学科、子ども福祉学科の講義・実習室



- ② 新図書館
- 約35万冊収蔵
 - 1F 新聞雑誌等開放スペース
 - 2F 開架閲覧室、3F 自習室

映画

時空-タイムマシン-2

今夏、いよいよ公開
—四国学院を舞台とした青春冒険活劇—

監督 本広克行(「踊る大捜査線 THE MOVIE2」監督)
出演 瑛太、上野樹里、佐々木蔵之助

～ストーリー～

もしもタイムマシンがあったら、とりあえず昨日に行ってみる?
マジに暑すぎる夏、とある大学の「SF研究会」部室。ぐったりと夏休みを過ごす5人の男子生徒と、2人の女性写真部員。前日にクーラーのリモコンが壊れてなやまされるなか、ふと見ると部屋の隅に突然タイムマシンが!!!! 「ためしに昨日に帰って壊れる前のリモコン取ってこよう」と軽い気持ちで乗ってみたら、さあ大変。想像もつかないような事態が次々と巻き起こって…!?

四国学院同窓会 個人情報の取り扱いと保護について

同窓生の皆様におかれましては、四国学院同窓会活動にご理解を賜りましてお礼を申し上げます。
ご存知のように2005年4月1日から「個人情報保護法」が施行されました。当会では、一層、会員の個人情報を適切に保護することが社会的責務として考えています。安心して同窓会活動にご参加いただくため、皆様の大切な個人情報の取り扱いにつきましては、次のとおりより慎重を期すべきと判断します。
今後とも当会活動にご支援をよろしくお願い致します。

1. 個人情報の保護に関する日本の法律及びその他の関連法令を特定し、それらを遵守します。
2. 個人情報の利用、提供は当会の事業に必要な不可欠な範囲内に限定し、個人情報を適切に取り扱います。
事業以外の第三者に提供、開示等は致しません。
3. 個人情報の不正アクセス、漏えい、紛失、棄損、改ざんの予防、安全策を講じます。
4. 個人情報は本人の権利を尊重し、本人からの情報開示や訂正・削除要求等は、社会通念や社会慣行に反しない限り実行します。
5. 個人情報保護の活動については、内容を継続的に見直し改善に努めます。

個人情報を提供いただく方法

会員本人または会員本人の了承を得たご家族様による連絡のみ受付します。

- ① 同窓会事務局の電話による直接連絡(対話)によるもの。
TEL(0877)62-5500
- ② 同窓会事務局から直接文書による依頼のもの。
- ③ 同窓会ホームページの「住所変更届け」に入力、送信によるもの。
<http://ha2.seikyou.ne.jp/home/shikokugakuindosokai/>
- ④ 同窓会事務局のファックス受信によるもの。
FAX (0877)63-4599

※ 尚、本人と確認させていただく為に、学生番号をご記入ください。不明な場合は、会から確認の連絡をさせていただきます。
個人情報また同窓会に関して、ご意見ご要望がありましたら下記までご連絡ください。

四国学院同窓会事務局
〒765-0013 善通寺市文京町3-2-23 TEL(0877)62-5500 Fax(0877)63-4599
e-mail rogosu@sg-u.ac.jp <http://ha2.seikyou.ne.jp/home/shikokugakuindosokai/>

2005年4月1日
四国学院同窓会 会長 林邦彦

ログス館利用案内

旅行の宿、同窓会場としてお気軽にご利用ください。
1階ホールのみのご使用も可能です。
週末は大変混み合いますのでお早めにご予約を。

休館日/お盆・年末年始

部 屋	定 員	室 数	使 用 料
2 階 和 室	10人程度	2	一人 1,200円
2階洋室(ベッド)	6人/10人	2	一人 1,200円
3 階 和 室	4 人	2	一部屋 7,500円
3 階 個 室	1 人	4	一部屋 3,000円

お問合せ・お申込は 四国学院同窓会事務局 0120-459-500

「祖谷山ロッジ」のご紹介

学院は自然が美しい
徳島県三好郡東祖谷山村に
素敵なロッジを所有しています。
卒業生も利用できるそうですので、
お気軽にお問合せください。

宿泊料 1,000円

お問合せ 四国学院 学生課
0877-62-2111(内線208)

編集後記

『カルチュラル・マネジメント学科』に続き母校に学科が新設されたので取材に行っておきました。『子ども福祉学科』は、社会的に最も必要とされる分野だと思います。今後とも同窓会に寄せられる様々な情報をお届けしますので楽しみに。

<会報委員> 飛田 由香 <学生校正委員> 宇都宮亜矢子 (4年、社会福祉)
(1983年度 英語科卒) 引田 誠子 (4年、人文)